

策定年月	令和6年4月
見直し年月	令和〇年〇月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：千曲市

(作成主体：千曲市農業再生協議会)

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## ○現状と課題

千曲市では、市内北部・西部・更級・上山田地区において実施しているブロックローテーション(集団転作地区)を中心に担い手への農地集積を図り、麦・大豆作を行っている。

過去から大小麦が生産され、大麦では「シュンライ」、小麦「ユメセイキ」が栽培されているが、ほぼ6生産者で担っているため、農家の高齢化に伴い農地集積が急速に進んでおり、現状の装備ではこれ以上の拡大は不可能な状況にある。

また、近年はブロックローテーション地区を中心に麦後大豆作も農地集積の急増で拡大傾向にあり、麦同様に高能力機械への切り替えが必要となっている。

加えて、以下課題にも直面している。

- ①面積拡大で適期作業を逸する事等による収量減(単収の高位安定が必要)
- ②西部・更級地区では農地間の作業効率が悪く、更に湿害対策が必須(排水対策の実施)
- ③コムギ赤かび病の定期防除(新作業追加で労力負担増加)
- ④大麦の品質向上(緩行肥料等、施肥見直し)

## ○課題解決に向けた取組方針

### 1) 適期作業励行による収量(単収)向上

- ・作業効率化をすすめるための機械設備の導入による面積拡大
- ・湿害対策が必要な地域では、状況に応じた明渠等の設置
- ・スマート農業技術の導入検討

### 2) 団地化の推進

- ・集積率の低い西部・更級地区でのブロックローテーションの更なる推進

### 3) 品質向上対策

- ・麦ではランク区分向上。大豆については実需に求められる品質の確保。

### 4) コムギ赤かび病

- ・開花及び出穂期を中心とする適期防除の徹底や薬剤のローテーション散布

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

### 1)小麦:ユメセイキ

JAながのを通じ、JA全農長野へ委託販売している。JA全農長野より実需者である柄木田製粉株式会社へ小麦を卸し、製品化しているが、需要に応えられていない状況。  
低アミロ品種であり、特徴を生かした底堅い需要があるため柄木田製粉株式会社からも増産を求められている。

### 2)大麦:シュンライ

小麦と同様に製品化しているが、需要に応えられていない状況。実需は麦茶組合となっており、温暖化で麦茶消費は伸びているため、引き続き品質向上と増産が求められている。

○千曲市 産地並びに実需者の麦・大豆取扱量

### 3)大豆

麦同様、JAながのを通じ、JA全農長野へ委託販売している。主に松本ノーサン(株)・マルコメ(株)・(株)松尾商店へ販売しているが、「長野県産大豆の需要はあるため、もっと生産してほしい。」と言われており、需要に応えきれない状況であるため、増産と安定した品質の確保が求められている。

単位:t

麦種	銘柄	産地集荷量 (実需への供給数量)	
		現状(5年度)	目標(9年度)
小麦	ユメセイキ	186	208
大麦	シュンライ	131	142

### 4)連携方針

情報共有を図り、国産麦・大豆の増産を図る。

単位:t

種類	銘柄	産地集荷量 (実需への供給数量)	
		現状(5年度)	目標(9年度)
大豆	ナカセンナリ	80	92

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

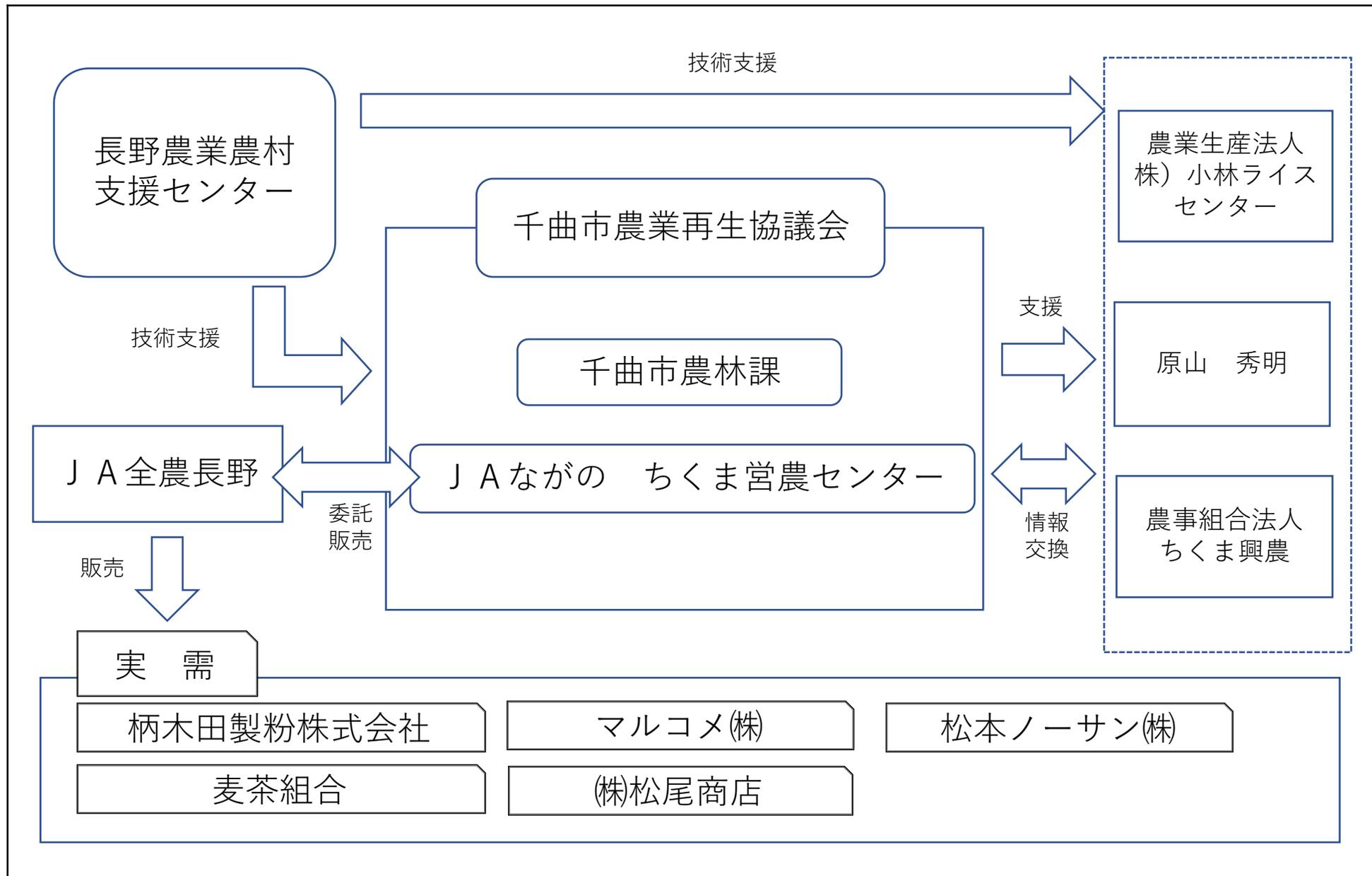
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。